

田辺かずき 県政報告

古賀発！たたいま
県政刷新中！

創刊第1号
2011年5月31日発行
〈田辺かずき後援会事務所〉
〒811-3117
福岡県古賀市今の庄1-5-36
TEL : 092-692-8510
FAX : 092-410-7730

◎裏面もあります！
→被災地報告／5月議会
／古賀での活動報告

政治は現場主義、決断と発信！

田辺一城の 発信箱



県議会議員としての任期が4月30日に始まりました。古賀市で一人だけの県議として、あらゆる立場を超えて市民のみなさんの思いを届けることを肝に銘じます。新聞記者として学んだ「現場主義」を徹底し、活動します。5月11、13日には東日本大震災の被災地に足を運び、福祉施設の関係者や住民の方に話を聞きました。

□4年の任期開始

□県議会の

実態報告を

「県議会って何しよるかわからん」。県議選の前から、こんな声をたくさん聞きました。だからこそ、私が見た県議会の実態について、さまざまな情報ツールを使ってみなさんに発信し続けます。この県政報告をはじめ、既にインターネットのホームページやブログを活用し、連日、政治活動を詳細に報告しています。

□県議会での立場

私は86人の県議の中で2番目に若く、所属党派「民主党・県政クラブ」(22人)で最年少です。県議は分野ごとに8つある委員会のうち一つに属することになり、5月16、17日、

に開かれた臨時議会では「厚生労働環境委員会」の委員に決定。高齢者、障がい者の暮らし、医療、雇用、廃棄物などの問題について討議・検討する委員会で。また、会派の「政策審議会」の企画メンバーにも就任し、県政課題全般について知事にたずね「代表質問」の骨格づくりをしています。

□6月議会で

一般質問

6月下旬から約1か月間、6月定例議会が開催されます。ここでは、本会議場で小川洋知事に直接質問する「一般質問」の機会をいただける予定です。また、県政の今年度予算に関し、詳細に質疑できる「予算特別委員会」の委員にもなります。福祉政策はもとより、防災対策、地方分権(地域主権)改革を進めるための国際都市・福岡のビジョン、子どもの学力・体力、地域の中小企業の振興策などについて提案したいと思います。

政治活動を連日発信中！

ブログ(活動日記) <http://ameblo.jp/tanabe-kazuki/>

公式ホームページ <http://www.tanabe-kazuki.jp/>



被災者
支援に汗



〈裏面へ続く〉

東日本大震災「被災地報告」

被災地訪問 —— 福島・宮城の声を聞く

災害弱者対策に課題

震災発生から2か月。被災地は復興に向かっていくとはいえ、戦争のような惨状が残ったままです。今回の震災の教訓を「現場」で聞き取り、福岡県の防災と減災の取り組みを向上させるため、単身、東北に向かいました。

5月11日早朝、福岡空港から東京・羽田空港へ。高速バスで福島県いわき市に移動し、福島第一原発から約50kmの距離にある介護老人保健施設に行きました。これは、行政支援がない中で「集団避難」を実行した経験から「災害弱者」を巡る新たな課題を聞き取るためです。翌12日は仙台市と岩手県一関市を経由し、宮城県気仙沼市に行きました。津波の被害が甚大だった港町のひとつです。災害ボランティアセンターに登録し、全国各地から集まった人と一緒に、被災者の方の自宅の泥かきをしてきました。

東日本大震災「被災地報告」

〈表面からの続き〉

福祉施設の「集団避難」に課題

福島県いわき市の介護老人保健施設「小名浜ときわ苑」。施設長の鯨岡栄一郎さん（理学療法士）が当時の様子を説明してくれました。

震災で、施設は壊れ、断水に陥り、食料が不足しました。ケアの継続が難しくなり、職員もメンタル面で不安定に。そこに福島第一原発の事故が重なり、寝たきりの方も含め100人を超える入所者とともに集団避難することを決断。被災から10日後、2000*以上離れた千葉県鴨川市に受け入れてもらうことができました。

被災と原発事故の複合災害

ところが、この集団避難は「民間の力」だけで実現したものでした。行政に問い合わせても「（いわき市は）放射線量が低く、避難指示も出ていない。何とも言いようがない」「自主的な避難なら構わない」といった対応。移動先での医療機関のバックアップ体制の構築、介護保険の問題、なにより丸ごと入れる施設



結果的に、鴨川市の医療機関の尽力でクリアできたとはいえず、これらは民間に「丸投げ」する問題ではありません。災害前に

防災計画を立てることで、少しでもリスクが減らせる問題です。

さらに被災と長距離移動の疲労で、2人の入所者の方が亡くなったそうです。集団避難における医療体制の整備も課題です。

それでも集団避難は有効でした。私が話を聞いた入所者の方もケア環境の改善を喜んでいました。鯨岡さんはメリットをこう話します。「円滑なケアの継続のために」利用者もスタッフも一緒に移って、一緒に戻れる。（施設は）いったんバラバラになるとコミュニケーションとして再開できない（場所を移しても）経営を継続できることが、職員の就業の継続の意味でも大切なことです。また、避難先の住民の方々が介護ボランティアで支えてくれたそうです。このように受け入れ側の意識の向上も大切

2か月後の気仙沼の現実

宮城県気仙沼市。三陸海岸に位置する気仙沼湾が津波に襲われました。ボランティア先は、一人暮らしの高齢女性のお宅。川沿いで湾から約2*上流ですが、1階に津波が押し寄せました。「ひざが悪いから怖かった。家がそのまま流れてきていた」。女性は必死に逃げたそうだが、自宅の庭には、大きなサバやニシンも流れ着き、泥が堆積しました。

結果的に、鴨川市の医療機関の尽力でクリアできたとはいえず、これらは民間に「丸投げ」する問題ではありません。災害前に



高齢者の自宅庭で泥かき 2か月が経った今も残る泥。私たちは仕事を撤去することでした。10*前後と分厚く、クワやショベルで削り取り、土嚢袋に詰めます。貝殻がどんどん出てきました。

近くの川の中には瓦礫や車両が多く残っていました。湾内も見ましたが、戦争が起きたように家々が崩れていました。それでも再開している商店もありました。港にはのぼりが立っていました。「起ちあがれ気仙沼！」「一刻も早く故郷を復興しよう！」今見聞きした現実を県議会の活動に活かす責任の重さを感じています。

募金総額2万9100円 折り鶴を被災地へ ありがとうございます 県議選の前から皆さんにご協力いただいた募金の総額は2万9100円になりました。民主党県連を通じて、日本赤十字社に送ります。ありがとうございます。また、みなさんに心をこめて折っていただいた「折り鶴」。今回訪問した小名浜ときわ苑に贈らせていただきます。

問題、は、本会議場で「候補」の政治理念を、県議や傍聴者が聞けないこと。

5月臨時議会

わかりにくい 議長選び

5月16、17日、臨時議会が開かれました。主な目的は、新たな議長を選出すること。ところが、この選出過程が県民にはとても分かりにくく、「不透明」と言われても仕方がないものでした。その実態を報告します。

議長を選ぶ本会議。もちろん傍聴もできます。ところが、私たち議員が投票する前に「議長候補」となる人の演説を聞くことができせん。いきなり投票です。そして、86人の県議のうち85人がこの「議長候補」に投票し、「当選」。傍聴している県民にとっては、意味が分かりません。なぜ、こうなるか。本会議の前に各会派の「代表者会議」が開かれます。この段階で折衝があり、最大会派の自民から議長を選ぶことに決定。全ての会派がこれに従うことになりました。県議会を含む地方議会は「二元代表制」ですので、本質は、議会における政党・会派の対立ではなく、知事との対峙です。だから知事と渡り合えるリーダーなら、自民だって、民主だって、公明だって、どこの会派から議長が出てほしいと思います。

問題、は、本会議場で「候補」の政治理念を、県議や傍聴者が聞けないこと。

議会改革など山積する問題から出て、なぜ、最大会派から出るのか。しかも法律では任期が4年なのに、1*2年で交代しています。もし「名誉」のようなもの欲しさに議長ポストが「たらい回し」（西日本新聞元日付朝刊）にされているなら、政治家の本旨とはかけ離れた感覚です。今回見えた問題点を今後活動に活かします。

みなさんとともに—古賀での活動

日々、農林、商工、飲食、文化、社会教育、障がい者・高齢者の地域活動といった各種団体の総会をはじめ、行政区の行事や清掃活動など市民のみなさんのさまざまなイベントに参加させていたさせていただきます。ありがとうございます。



ブログ <http://ameblo.jp/tanabe-kazuki/>
公式HP <http://www.tanabe-kazuki.jp/>

＜田辺かずき プロフィール＞

1980年5月16日生まれ
1987年 暁の星幼稚園 卒園
1993年 花鶴小学校 卒業
1996年 古賀中学校 卒業
1999年 福岡県立福岡高校 卒業
2003年 慶應義塾大学法学部法律学科 卒業
毎日新聞社 入社/福井支局 配属
原発事故や災害弱者、日本人拉致問題などを取材
2006年 大阪本社社会部 配属
橋下徹・大阪府知事、大阪府警、甲子園などを担当
福祉問題、地域活性化、国際紛争などにも取り組む
2011年 福岡県議会議員 初当選
毎日新聞社 退社
民主党福岡県第4区総支部 幹事長

〔家族〕 妻と一男一女。妻は同い年の会社員
〔最近のおすすめ〕 先輩記者の著書「ルポ資源大陸アフリカ 暴力が結ぶ貧困と繁栄」（白戸圭一、東洋経済新報社）。
● 対中関係を描いている漫画「社長 島耕作」（弘兼憲史、講談社）も、いつも最新線で戦う島がいい。／中東情勢も気になる。／ラジオでミステルやジュディマリが歌う90年代の名曲が流れるとうれしい。

昨年来、多くのみなさんに私の日々の政治活動を支えていただき、県議選では1万1271人の方に名前を書いていたいただきました。一方で有権者数は4万6000人。これから4年間は、名前を書いていた方々はもちろん、名前を書けなかった方々や投票に行っていなかった方々に理解をいただくための時間でもあります。負託にこたえるよう全力を尽くします。 田辺一城